

第22回日本ボランティア学習学会 第1分科会報告

日時 2019年11月17日(日) 10:15~12:15

報告者 進藤央斗羽氏(北海道札幌高等学校教諭)
宮前耕史氏(北海道教育大学釧路校准教授)

コーディネーター

江口尚文氏(旭川大学経済学部教授)

【報告①】進藤央斗羽氏

テーマ『地域をフィールドにまちづくり・学校づくり・人づくりにチャレンジ「志プロジェクト」』について

(1) 内容

札幌町の問題、人口が4700人まで減少になると予想される昭和25年に札幌に設立。農業の担い手を育成することを目標に取り組む。コミュニケーションに問題(自己肯定感の低い)のある生徒の入学が多い

ボランティア活動を通して自己肯定感UPに繋げる。H26年度から独自に志プロジェクトを行う。探求型の学習→大きな夢に挑戦(札幌を知ってもらう)→将来の地域のリーダーを育てる。申請書を農業クラブ執行部に提出。ブランド認証会議を経て、認証されれば全校生徒の前で賞状と認証バッチを提示。227の認証している。バッチの収集を1つの目的としている子もいる。たくさん集めることで自己肯定感UPへ繋がる。G-GAP認証取得。高校では全国で2番の取得。町からの支援有り。

地域と協力して、商品のブランディングをしている。広報活動として、ラジオ等にも出演している。

(2) 質疑

- ・生徒は議論・振り返り時の指導はどうなっているのか
—生徒の学びに繋げるために、振り返りシートの導入。
- ・1年生~3年生にかけて意欲的に活動に繋がっているのか
—2年生からプロジェクト活動を行っていくため、この頃から意欲が増す
- ・生徒の温度差の違いをどうしていくか
—バッチや外部に取り上げられる事でモチベーションアップに繋がる
- ・教員同士が個々に分断はされないのか
—小規模校のため、教員間で耳に入りやすい。また、発表会で見る事ができる。

【報告②】宮前耕史氏

テーマ『地域とともにつくる学校の先生になるー北海道教育大学釧路校「うらほろスタイル」プロジェクト』について

(1) 内容

「地域に根ざした」とは、ふるさとを作ることである。現在、地域人材、地域を活用するために動いていることが多い。また、地域を知らない人が多い。教員は学校中心ではなく、地域を中心とした考えを持つことが必要である。そこで「うらほろスタイル」プロジェクトを始動。地域の農家に宿泊し、体験活動を行っている。ワークショップや、高校生の学習の手伝いを行う。そのことを踏まえ、教育実習に学生を送り、地域に根ざした教員を養成していく。

(2) 質疑

- ・教員間の温度差の違いはあるのか
 - ー研究室によって違う。学校中心の活動を行う先生が多い。地域に飛び込み、繋がりを持つ事が重要。
- ・地位に根ざした教育で教員養成はできているのか。
 - ー普通科卒業の学生が多いため、「地域」といった考えを持つことが少ない。